

市議会会派 自由民主党 仙台市議会議員(宮城野区)

赤間 次彦 市議会通信

令和3年第2回定例会報告 令和3年 夏 号

発行/赤間次彦 〒983-0821 仙台市宮城野区岩切字今市東18-1
TEL・FAX: 022-255-0095
http://www.sendai-akama.jp mail@sendai-akama.jp

令和3年第2回定例会では…

- 新型コロナウイルスワクチン接種費132億1362万円を増額。
- 困窮する女性への生理用品1万個の無料配布、相談体制拡充費用1500万円を計上。

令和3年第2回定例会報告

日頃よりの仙台市政へのご協力に感謝申し上げます。

令和3年第2回定例会(6月8日~23日)の報告を致します。

今定例会では、新型コロナウイルス対策費などを計上し、計163億985万円を増額する補正予算など議案8件、意見書案1件を可決いたしました。

主な補正予算は、新型コロナウイルスワクチン接種費132億1362万円などとなっており、意見書は新型コロナ対応を巡り、緊急事態宣言を政令市単位で出せるようにすることや、都道府県知事の権限や財源の政令市への移譲、地方創生臨時交付金の追加などを国に求めました。

今回のレポートは「会派 自由民主党」の代表質疑と答弁の要点、令和3年度の宮城野区内の主な事業の一部を掲載させていただきました。

是非一読いただき皆様の仙台市政へのご意見を頂戴したいと考えております。

ワクチン接種、感染症対策について

質問 本市におけるワクチン接種の体制がすべて稼働し、市民に対する接種が加速的に進むことを大いに期待する。

65歳以上の高齢者接種について、7月末完了に向けて進めているが、現時点での高齢者の接種状況、7月末時点での実績見込みについてどう認識しているのか。

答弁 大規模接種や集団接種の予約件数は約5万人分となっており、個別接種は6月末までの予約数が約13万人分となっている。少なくとも約18万人の方が7月末までに2回目の接種を終えられる見込みで、希望される市民お一人おひとりの接種が円滑に進められるよう取り組んでいく。**質問** 64歳以下の方へは、高齢者の方々の接種がまさに山場を迎えているなかで、なかなか予約が取れないのではないかと危惧する。いつ頃から優先接種対象の方々、それ以外の方々の接種を開始できるとの見通しを持っているのか。**答弁** 6月中は65歳以上の方々の接種を優先的に進めており、優先接種対象以外の方々については一定程度めどがついてから予約開始のお知らせをすることとなり、現時点では概ね8月中旬以降になると考えている。**質問** 円滑な接種の推進には、正確かつ丁寧な情報提供が、ますます欠かせない。この点での取り組みについて伺う。**答弁** 市政だよりや市ホームページはもとより、新聞・テレビ・ラジオなど、様々な媒体を用いた広報に努めている。加えて手続きなどをまとめた手引きを全世帯に配布したほか、各地域団体の協力をいただきながら、掲示板や回覧板等を活用したお知らせなどにも取り組んでいる。**質問** 国は職域接種の対象を最低1000人規模としていることから、本市においても大手企業が準備を進めている。中小事業者からは、「ぜひ共同実施で職域接種に取り組みたい」という声が届いている。職域接種の推進についてどんな認識を持っているのか。**答弁** 今後本格化する64歳以下の方々の接種を後押しする大変心強い取り組みである。制度利用を希望される企業等に対して本市としても相談に応じるなど可能な支援を行っていききたい。

質問 今後は、感染しやすく重症化しやすいことが指摘されている変異株に、ほぼ置き換わっている。これまで経験したことのない大きな波が襲ってくることを想定し、様々な対策を講じていく必要がある。

今後の見通しについて伺う。また、このような厳しい事態を想定して、保健所の体制を強化すべきだが、準備状況は如何か。

答弁 職員の増員や患者移送体制の強化など業務の見直しを図るとともに、一日あたり陽性者数が過去最大の2倍程度となることを想定し、保健所等への応援職員を450名程度導入した。感染拡大に即応できる準備を進めており、なお一層の危機感を持って取り組んでいく。

PCR検査受診率を向上する取り組みについて

質問 高齢者施設と障害者施設の職員を対象とした定期的検査は意義のある取り組みだが、施設での申し込み率が約48%、職員数は約66%の申し込み率と聞く。本来からすればすべての職員が定期的検査を受けるようにすることが必要だ。申し込み率がこの程度にとどまっている要因についてどう認識しているのか伺う。

答弁 すでに施設内で独自の検査体制を整備していること、ワクチンの接種が一定程度進んでいることなどの回答だ。引き続き施設の検査の目的を理解いただけるよう、丁寧な勧奨に努め積極的な申し込みを促していく。

質問 飲食店従業員を対象としたPCR検査を5月末から始めた。検査が開始されてから半月ほど経過したが、現在の申し込み状況と検査の結果はどうなっているのか。

また、今後の周知強化に向けてどう取り組む考えか。

答弁 6月10日時点で、1,373件9,436人分の申し込みがあった。そのうち検査済は2,252人となっており陽性は2人だ。

今後月一回程度ホームページ等で公表していく予定だ。今後は次回検査についてメールで勧奨を行うなど、定期的かつ継続的に検査をいただけるよう努めていく。



地域経済の再生と事業者支援について

質問 感染症の影響が長期化することにより疲弊した地域経済の再生と事業者支援について聞く。

はじめに、時短要請に伴い支給してきた協力金は欠かせないもので、速やかな支給が重要だ。第1期からこれまでの協力金の支給の状況、その効果についてどう認識しているのか。

答弁 受付から概ね3週間で支給できるよう進めており、4月5日まで時短要請を行った第4期分までの支給がほぼ完了した。

実績としては昨年12月末からの第1期分から第5期延長分までを合わせ、延べ約12,000事業者に約87億円を支給した。

質問 時短要請や県・市独自の緊急事態宣言の影響は飲食店にとどまらず、多くの事業者に及んでおり、関連する事業者の事業継続のためにも支援は大変重要だ。

この支援金事業を行うこととした意義、また、多くの事業者に利用いただくためにはしっかりとした周知も必要だ、如何か。

答弁 飲食店はもとより関連する事業者にもその影響が広く及んでおり、これら中小事業者の事業継続の下支えが必要との認識のもと、2回目の支援金の支給を行うこととした。多くの事業者の皆様を活用いただけるよう努めていく。

子供を産み育てやすい社会の実現について

質問 コロナ禍が長期化する中、社会環境の変化に伴い、子育て家庭の家計や養育環境に様々な影響が現れており、特にひとり親家庭においては、その影響が大きくなっている。今年度の新規事業としてアウトリーチ支援に取り組むこととしているが、改めてその目的と期待する効果について伺う。また困難を抱えた家庭への支援のあり方について所見を伺う。

答弁 困難を抱える子育て家庭には、様々な事情から支援機関につながりにくい状況にある方も多い。こうした家庭を早期に発見し適切な支援につなげていくためにアウトリーチ支援が重要と考えている。夏休みなどに虐待リスクが高いと把握している要保護児童の小中学生のいる家庭を中心に、週に一回程度訪問し、食品提供と生活相談支援を行うなどの事業を進めている。



質問 本市でも出生数の減少傾向に歯止めがかかっていない。これまでの子育て支援の総括を伺うとともに、国の動きも踏まえつつ、子供を産み育てやすい街の実現に向け、今後、子ども・子育て支援にどう取り組んでいく考えなのか伺う。

答弁 本市では「すこやか子育てプラン2020」に基づき、各般の施策を進めている。コロナ禍であきらかになった新たなニーズを踏まえながら、引き続き子供を産み育てやすい街の実現を最優先の政策課題と位置付け、さらなる子育て環境の充実に積極的に取り組んでいく。

イベント関連支援、東京オリンピック・パラリンピックについて

質問 本市には一年を通じて市民が楽しめる街の賑わいが感じられる様々なイベントがあるが、昨年来、ほとんどが中止や縮小での開催を余儀なくされている。引き続きイベント開催においても感染を拡大させない方策を確立し講じていくことが重要だ。「屋外イベント開催支援事業」をイベント関連事業者への支援という趣旨だけに留めるのではなく、「ウィズコロナ」の下でのイベント開催へつなげていく必要がある。屋外や屋内でのイベント開催の支援と、開催するための環境づくりについての市長の考えを伺う。

答弁 ウィズコロナのもとで誰もが安心して参加できるイベントの定着を図ることが重要で、イベントにおける感染症対策セミナーを開催するほか、本市の市有施設における感染対策も含め、安全安心のイベントが開催できる環境作りを進め、一日も早く街のにぎわいを取り戻し、地域経済の回復につなげていきたい。

質問 本市はイタリアのホストタウンとして計5競技、約130名の事前キャンプを受け入れる予定だ。市内の感染拡大や世界へのウィルス拡散につながる事は絶対にあってはならず、住民及び合宿を行う選手双方の安全確保が重要だ。

事前キャンプを受け入れるにあたり、市民及び選手双方の安全のためどんな感染症対策を講じる考えなのか伺う。

またイタリア選手団がオリンピック・パラリンピックで最高のパフォーマンスを発揮できるよう、力を尽くすことがホストタウンである本市の責務だが認識を伺う。

答弁 期間中は市民の皆様との接触が生じないよう、選手団の移動は宿泊施設と練習施設の間のみ

に限定し、専用車両を使用するとともに毎日の健康管理やPCR検査、行動管理を行うこととなっている。選手が本番直前の練習に打ち込むことのできる環境を整え、大会で存分に力を発揮していただけるよう、ホストタウンとしての役割を果たしていきたい。



質問 隣接する利府町において、サッカー競技が10試合開催される。これらの方々は市内の宿泊施設に滞在することが想定され、本市への影響も大きく市民が懸念を抱いている。選手団・大会関係者・国内観客に対して、誰が責任を持ってどんな感染症対策がなされるのか、また本市はどんな点に懸念を持ち、大会組織委員会とどんな協議を行っているのか伺う。

答弁 大会組織委員会が受け入れ責任者となり、健康管理や行動管理、PCR検査、専用車両での移動など事前キャンプと同等の感染症対策が実施される。

市民の皆様のお安全・安心を守る立場から万全の感染対策が講じられるよう、大会組織委員会に求めていくとともに、宮城県や保健医療機関等と連携しながら適切に対応していきたい。

マイナンバーカードについて

質問 令和4年度末までに全国民がカードを取得する目標を設定している。本市のカード申請・交付の状況、他の大都市との比較で見た本市の位置、今後の申請の見通しは如何か。また今後、申請・交付の促進に向け強力な取り組みを進めるべきだが、どう取り組んでいくつもりなのか伺う。

答弁 申請率が本市人口の49.4%、交付率が34.2%となっている。政令指定都市と比較すると申請率が6位、交付率は10位となっている。

今後カードの利便性等をわかりやすく広報するとともに「申請時来庁方式」や「出張申請受付方式」に取り組むなど、マイナンバーカードの一層の普及に向けたさらなる体制強化を図っていききたい。



本市の成長戦略及び行財政改革について

質問 令和2年度市税収入の決算見込みはどんな状況にあるのか。元に戻る見込みがあるかと考えているのか、やはりダメージが広がっていて厳しい状況が続くと考えているのか伺う。



答弁 令和2年度の市税収入決算は、2,190億円程度と見込んでおり、令和元年度決算と比較し30億円の減収となる。令和2年度と比べ100億円ほど減少の約2,060億円を見込んでおり、市税収入の回復には一定の時間を要するものと認識している。

質問 歳出の見直しも新たな視点が求められる。行革待ったなしという状況で、これまでと同じという事はありません。市長は行財政改革、市役所経営プランの見直し・改定にあたり、どんな方針のもとに取り組むを進めていく考えなのか伺う。

答弁 これまで以上に踏み込んだ行財政改革が必要である。現行プランのすべてを精査し、既存の事業であっても改めてあり方を見直すよう指示をした。限られた経営資源

を最大限に活用できるよう取り組んでいく。

市長の自己評価とリーダー像について

質問 今定例会が終わると次の4年間の本市政の舵取り役を選ぶ市長選挙となる。市長はこの4年を振り返りどう総括するのか、積み残した課題は何だと考えるのか伺う。またコロナ禍を踏まえ、改めて市長が考えるリーダー像とはどんなものか。

答弁 本市の教育現場で発生した痛ましい事案を二度と繰り返すことがないという強い決意のもとで、いじめ防止条例の制定や、35人以下学級の拡充など、未来を担う子供たちの命を守り、健やかな育ちを支える環境整備に全力を尽くしてきた。

仙台市政は、あの東日本大震災から10年にわたる復興を踏まえ、21世紀半ばを見据えた新たなチャレンジを始めなくてはならない。コロナ禍での、市民の皆様との健康、そして地域経済をしっかりと守るという最優先課題への対応はもとより、基本計画に掲げる「挑戦を続ける、新たな杜の都」の実現に向けた未来のまちづくりにおいて、リーダーシップを発揮するとともに、109万市民の皆様と共に魅力あふれる仙台を次世代に引き継いでいくため、力を尽くす覚悟だ。

令和3年度 宮城野区内主要事業(抜粋)

- 原町コミュニティ・センター大規模修繕設計
- 蒲生北部地区復興再整備
蒲生北部地区において土地区画整理事業等を進める
- 学校教育施設整備
榴岡小学校の校舎等増改築工事を行う
- 鶴ヶ谷第二市営住宅団地再整備推進
- 福田町駅自由通路等検討調査
JR東日本が実施する福田町駅のバリアフリー化に伴い、鉄道への乗り継ぎの利便性を高めるため、駐輪場等の施設整備の検討を進める
- 道路整備
今市福田線、鍋沼線等の整備
- 橋りょう整備
宮城野大橋、新田東大橋等の補修工事

- 公園整備
高砂中央公園、仙台駅東1・2号公園、蒲生北部2号公園等の整備
- 被災者交流支援事業
被災者交流活動への公募による助成を行う
- 未来につなぐ地域力推進事業
多様な主体が連携した地域づくり活動を支援するため、情報共有・課題検討を行う勉強会や、実践活動につながるワークショップの開催などをサポートする。
また、次代を担う若手人材の育成を目的として、研修会等を開催し、ネットワークづくりを促進する。さらに、東部沿岸地域の歴史などを未来に伝えるとともに、豊かな自然などの魅力を発信し、交遊やにぎわいを創出する

皆様の声をお聞かせください。ご協力よろしくお願いたします。

仙台市議会議員
(宮城野区)

赤間次彦

<http://www.sendai-akama.jp>
mail@sendai-akama.jp



【市議会会派自由民主党】

〒980-8671 仙台市青葉区国分町 3-7-1
TEL/022-214-8716 FAX/022-711-5687

【自宅・事務所】〒983-0821

仙台市宮城野区岩切字今市東 18-1 TEL・FAX/022-255-0095

●市政に対するご意見、地域のお困り事等がございましたら、お気軽にお寄せください●